

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390600209		
法人名	株式会社 ジェネラス		
事業所名	オスピタリテねもころ		
所在地	愛知県名古屋市中区千代田2丁目16番28号グラシア2号館8階		
自己評価作成日	令和4年6月27日	評価結果市町村受理日	令和4年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kainkensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kaitou_detail_022_kihonstru&lgwssvcCd=2390600209-009.ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	令和4年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションとして「おとなの学校」(回想法を元に作られた教材)、動画などで体操・脳トレをほぼ毎日行い楽しく過ごして頂ける様努めている。 食事提供は厨房で行っており、スタッフが食事作りにかかわらないのでその分人手があり、利用者様に目が届き、精神的なケアの強化、転倒等による事故など防いでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

他の介護保険サービス事業所や施設が入る建物の1フロアにあるグループホーム「オスピタリテねもころ」は、利用者が自分らしく、喜びを感じながら過ごせるホームを目指し、開設年数は浅いながらも経験豊富な職員を中心に日常生活をサポートしている。 高齢者向けの教科書「おとなの学校」など脳トレやレクにも積極的に取り組み、コロナ禍においても日常を少しでも活発に過ごしていただくよう努力をしている。 提携医師との連携や看護師の定期的な訪問等、健康面・医療面にも最大限の配慮をおこなっており安心感がある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念以外に職員が思うケア理念を作り、事務所に掲示、常々確認し自身を見直し、実践につなげている。	喜びを感じ、楽しい毎日を、自分らしく過ごす、といった信念のもと、管理者と職員で話し合いながら毎日のケアに取り組んでいる。理念は職員が自ら話し合い考えたこともあり、ネガティブな気持ちになりかけた時に常に思い出し、初心に帰ることができ、拠り所となっている。	
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流できていない	現在はコロナ禍となってしまい、また大きな建物の上層階に位置するホームのため、公園の清掃活動に参加している以外、地域との協力体制の構築がなかなか進んでおらず課題となっている。	
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スーパー、コンビニなど買い物時認知症高齢者の姿を目にすることで身近に感じて貰えればと、思っている。公園など散歩時挨拶などでコミュニケーションをとっている。		
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議は開催していないが、取り組みなどは書面にて報告している。	運営推進会議はコロナ禍のため書面開催とし、いきいき支援センター、自治会長等の委員へ状況報告をおこなっているがレスポンスが少なく、コロナ終息後に向けて運営推進会議の本来の目的に近づけるように準備をお願いしたいと考える。	
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何もできておらず、どうすれば良いのか考えたい。	いきいき支援センター職員や市役所、区役所の担当課との連携は今後の課題である。コロナの状況が落ち着き次第、区役所担当者との連携を図っていくなど検討をお願いしたい。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティングで拘束になるようなことはなかったか？(小さな事でも)確認、共有し、拘束しないケアに取り組んでいる。	職員の身体拘束廃止についての理解を深めるため毎月小さな事例も含めて職員で検討している。スピーチロックについても、言い換え等コミュニケーション技術を意識してケアに取り組んでいる。	
7			○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、事例などで話し合い防止に勤めている。管理者は職員が虐待に至るような精神状態にならないよう職員のケアにも努めている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで認識はあるが、個々の必要性などあるのかなど具体的に考えた事はなく、身近にとらえ、学んでいかなければならない		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネ・管理者が行っている		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートをおこなったり、面会時など意見、要望はお聞きしており、スタッフ全員に共有すべきことはチャットなどで共有している。	コロナ禍において利用者家族との面談に制限があるため、ホーム独自のアンケートを実施し意見を把握できるよう努めている。利用者の日用品をあえて家族に買ってきてもらい、少しでもホームに来所してもらう工夫もしている。	
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時はもちろん、日々意見は言いやすい、聞きやすい環境になっており、提案・意見は職員みんなでその都度話し合いができています。	管理者と職員と一緒に考え悩んで、現場で起きていることを常に情報共有し、日々のケアに取り組んでいる。離職率が低く、職員が意見を言いやすい環境にある様子が窺える。	
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与など能力別に段階があり、研修など自分でスキルをつけると給与に反映される仕組みになっている。時間有給や時短勤務など職員の事情に合わせて勤務できる。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの度研修を行ったり、職員に合った外部研修を勧め実践している。資格取得しスキルが上がる事で給与報酬もあり、向上心アップに繋げている。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設のレクリエーションの報告により、自施設のサービスを見直したり、向上に務めている。現在コロナ禍でグループ内の交流はできていない。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取り、観察、関係者からの情報収集したアセスメント作成し、職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月本人様の様子をお手紙でお知らせし、こまめに電話・メールで連絡をとったり、面会時にも様子を報告、ご家族様の様子も伺う様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様には自施設での対応を説明し、希望を伺っている、本人様にはその都度どうしたい方が良いのか？聞き取れる方は聞き取り、他の方は観察に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや外出時、何か作成する時など共に楽しみ、共に苦労し、時には教えを請い、達成感なども共に味わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には良いことも良くない事も報告し、家族様の意向を伺い、本人の為にはどうすべきか常に相談しあえる関係を築ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様などの面会も緩和されつつあり、今出来得る限りの支援に努めている。	現在は家族面談すら制限があるため、なかなか外出や知人との交流が難しいが、以前は友人が利用者を訪ねて面会することもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でのコミュニケーション時は職員が間に入るようにしている。レクリエーションなど可能な限り、参加を促し一人じゃない生活を楽しめる様支援している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から連絡があった場合は相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には本人の意向を重視し、レクなど参加したくない、居室から出たくないなどマイペースで過ごしたい方など参加は強制せず、職員が個々にレクを行ったりし、徐々に他の方との交流も勧めている、	各職員が利用者の様子をよく観察し、運動や脳トレなどいろいろなものを提供して様子を確認し、時には家族から情報収集を行いながら、利用者ひとりひとりの想いを探している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係者からの情報と家族様からの聞き取り、入居後は本人から出来得る限りの情報をひきだし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方に変化があれば、チャット等で職員間で共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで職員間で意見交換、他職種・家族様に相談し、作成している	各職員は利用者の想いを把握するよう努め、生きた情報をケアプランに反映させる努力をしている。それぞれの利用者の個性を把握しサポートしながら日常生活を送っていただき、プランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が良いと思ったことは実践し、他の職員に共有、日々の記録などで結果など周知し、よりよい支援に繋げる事ができる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の意向に対応するため、どんな支援やサービスを必要としているか聞き取り、考え、可能にするために取り組んでいる。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為にできていないが、どんな資源があり、支援に繋ぐ事ができるか準備しておく必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様のご希望の医療機関に依頼し、受診シートを活用し、連携をとっている。	医療機関と提携し利用者の健康管理を行っているが、利用者の馴染みのかかりつけ医を利用し続けているケースもある。健康面での不安や疑問があればすぐに報告・相談し、対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時は申し送りシートを活用し、相談指示をうけ、特変時などは電話などで相談、必要であれば訪問の依頼をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を必要最大に提供し、その他家族様などの希望も伝えている。退院時ムンテラなどで、情報収集し、出来得る限り入院前の状態に戻る事ができる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、ある程度予想できることは家族様に説明し、大まかな方針を共有し、重度化や終末期に近くなってきたら、再度話し合い、その後も幾度もなく話し合い、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。	重度化に関する利用者家族の意思は常日頃から聞き取りし確認するが、状態に応じて何度も話し合い、家族の想いを大切にしながら支援の判断を相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、常に起こりうることとして心構えはしているが、訓練などは行っておらず、シュミレーションが必要だと思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行っているが、いざ避難が必要になった時はスムーズにはいかないと思われ、さらなる訓練が必要である。地域との協力体制については足りないと思われる。	地域との連携はまだ進んでおらず、非常災害時等に協力を得られるようにするには今後の努力が必要だと感じる。災害に対応した訓練は定期的におこなっているがより実践的なものにしていく課題もある。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様をニックネームなどと呼ばず、○○さんと呼んだり、本人だけに聞こえる様声掛けしている。スタッフ同士気になる事は会議で話し合い人格の尊重・プライバシーの確保に努めている。	利用者のしたいこと、利用者自身ができることを尊重し、それぞれの利用者に応じた呼びかけや言葉遣いを心がけている。トイレ誘導時にもプライバシーへの配慮に取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表出しにくい方は2択など提案しできるだけ自己決定できるよう取り組んでいる。普段から傾聴に努め、何を望んでいるのか探る様にしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	何かするときは、その度伺う様にしている。個々のペースが違うので難しい時もあるが、希望に添えるよう努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、季節の変わり目など見た目の変化に気づき、利用者様同士の話題にのぼるようフォローしている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助時などは、何を食べているのか伝えられている。レク時は何が食べたいか？どんな事がやりたいか伺う様にし、無理強いはずずできることは参加促している。	日頃はホームとは別のフロアに厨房があり、専門のスタッフが調理している。誕生会など昼食レクとして利用者と調理をしたり、散歩の途中でコンビニ等でお菓子を買うなど、食の楽しみを増やす努力をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいる厨房でカロリー管理もされており、禁食などにも対応している。飲み物の形態・種類などその方に合った物を提供している。声掛けし、促している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指示の元必要な支援をしている。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を観察・記録し個々のパターンや習慣を熟知し、失敗しないよう事前に声掛け誘導している。	お一人お一人の心身の状況を見極め、必要なケアを実施している。利用者の使える能力を活用した自立支援を目指して、日々の排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や摂取の促し、軽い運動などを行い、医師・看護師にも相談服薬もしながら、排便時はその形状にも注意している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援をしたいと思っはいるが、難しい事が殆ど(夕食後とか、職員配置の事情など)である。拒否の強い方などは毎日チャレンジしたりする。	普通浴のほか、ホームの別フロアにリフト浴もあり、必要に応じて利用できる環境にある。入浴をできる限りゆったりと楽しんでいただけるよう、タイミングや声かけ誘導の方法など工夫して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は覚醒し自らトイレにいきたい様子がない場合はおむつ使用し、パット交換は最小限にしている。臥床時間など本人の希望に沿った支援をしている。安心して入眠できるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最低限誤薬を防ぐ事、薬の知識については全職員がすべて網羅しているとは言えず、特徴的な種類の物についてはなんとなく知っている程度だと思われ、症状との兼ね合いなど理解しておく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、誕生日にはリクエストメニューの物を用意している。2/3くらいの方が「おとなの学校」レク、食事レク、作業レクなど興味を持って参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出や、買い物、通常の散歩など、十分な感染対策をし、外出している。	コロナ渦において、日常的な外出がほとんどできなくなってしまったが、公園での散歩など徐々に外出の楽しみを増やしていく考えもある。お花見、バラ園など季節感を感じられる外出ができるよう努めている。	

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は自分でもっておられ、買い物時自身で支払いしていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は職員がフォローしている。携帯を所持されている方は自由に掛けておられる。毎月施設からのお手紙に利用者からの伝言を記入する箇所があり、書ける方は書いておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月壁面飾りを皆で作り、リビングを飾っている。イベント後写真などで作りその時の様子を掲示している。居室持ち込みたい物がある方は自由に持ち込んで頂いている。	季節を感じる装飾などを手作りで制作し飾り付けるなどして明るいリビングになるよう工夫し取り組んでいる。回想法を積極的に取り入れて、会話のきっかけ作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでテレビを観たり、パズルをしたり各々自由に過ごし、居室・リビングも行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持ち込まれ、居室内では自由に過ごしておられる。飾り付けしておられる方もある。	利用者家族の協力で、できるかぎり使い慣れた家具、写真などを持ち込んでいただき、少しでも利用者にとって落ち着ける空間になるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月1回のミーティング時アセスメントをし、職員全員が利用者様の状態を把握、共有し、個々に合わせた支援をしている。		